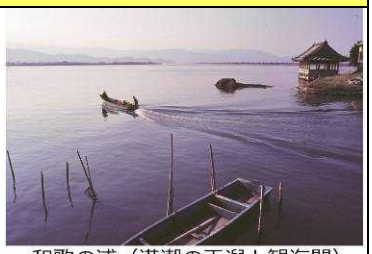
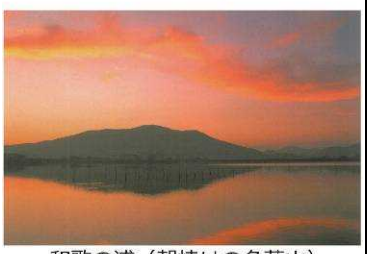
絶景の宝庫　和歌の浦

ストーリー

１．芸術を育んだ絶景　和歌の浦

和歌の浦は、和歌川の河口に広がる干潟を中心に、南は熊野古道の藤白坂から、西は紀伊水道に面する雑賀崎までの、和歌浦湾を取り巻く景勝の地である。万葉の時代にこの思わず持ち帰りたいほどの情景が和歌にうたわれ、和歌の神がまつられ、唯一無二の和歌の聖地となった。その情景が和歌と絵画に融合した和歌浦十景は、潮が満ち干潟から鳥が飛び立つ様、春霞の干潟越しにみる寺社を抱く山並み、紅葉の峠越しに見下ろす波穏やかな入り江など、うたわれ絵になってきた絶景を、今も訪れる人々に教えてくれる。自然と文化が調和した和歌の浦の絶景は、日本人の精神文化の源ともいえる和歌に始まり、いつの時代も人々を魅了し、様々な芸術を育んできた。


和歌の浦（満潮の干潟と観海閣）

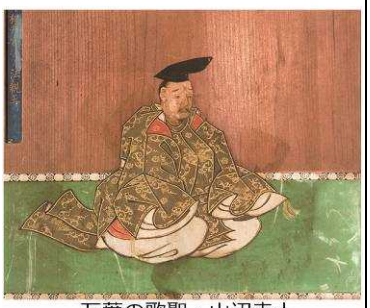

和歌の浦（朝焼けの名草山）

２．和歌の聖地　和歌の浦の誕生

1300 年前の奈良時代、**聖武天皇**は、即位の年という特別な機会に、当時「若の浦」と記されたこの地を訪れた。遠くに名草山を望み、目の前で刻々と変化する干潟の広がりと、そのなかで沖に向かって連なる玉津島山のながめに感動し、この地の神・明光浦霊に祈りをささげ、そしてこの景色を末永く守るよう命じた。歌聖・**山辺赤人**の**「若の浦に潮満ちくれば潟を無み　葦辺を指して鶴鳴き渡る」**（若の浦に潮が満ちて干潟が見えなくなり、干潟にいた鶴が一斉に飛び立ち、葦のはえる岸辺へ鳴きながら飛んでいく）という、躍動感あふれる情景を見事に描きだした歌が、その時の天皇の感動を表している。

和歌浦十景（名草晩潮）

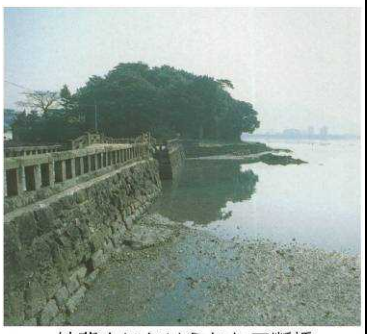
この歌が平安時代、**紀貫之**により和歌の聖典といわれる**『古今和歌集』**で改めて取り上げられたことが、「若の浦」が和歌の聖地となる第一歩であった。「若」の浦が転じて「和歌」の浦となり、美しさが衣を通して輝いたという和歌の名人・**衣通姫**が和歌の神として**玉津島**にまつられ、和歌の聖地として崇められたのである。古代から中世にかけて、時の関白・大臣までもが、熊野参詣や西国巡礼の道すがら、名高い和歌の浦を観光し、また和歌や物語など様々な文芸作品に取りあげていった。


万葉の歌聖・山辺赤人

この和歌の浦に象徴された和歌の世界は、玉津島の神をまつり、六義園のような和歌の浦を模した庭園を造ることで、京や江戸にも広がっていった。文化人たちは和歌の浦にあこがれ続けてきたのである。

３．天下人や藩主もほれこんだ、和歌の浦の絶景

中世末、**豊臣秀吉**は、紀州攻めの際に古来の景勝・和歌の浦を遊覧し、その名にちなんで北方の岡山に建てた城を**和歌山城**とし、その城下が和


妹背山にかけられた三断橋

歌山とよばれるようになった。こうして「和歌」の名は、現在の県名にまで引きつがれ、和歌山の誇りとなっている。

400年前の江戸時代、**徳川家康**の十男**頼宣**が和歌山へ入国すると、和歌の浦の北西にそびえる権現山に父家康をまつる**東照宮**を、干潟に浮かぶ妹背山に母お万の方をしのぶ**多宝塔**を建てた。そして妹背山に**三断橋**をかけて**観海閣**を設け、干潟の移ろいを楽しむ場として民衆に開放した。また東の対岸、紀三井寺からの渡し舟で、西国巡礼の旅人を和歌の浦へと誘った。頼宣が始めた紀州東照宮の例大祭・**和歌祭**では、和歌の浦を背景に渡御行列が練り歩き、民衆も楽しんだ。名所に民衆が自由に集い楽しむ場が設けられたのは、和歌の浦が始まりである。

また和歌の浦の景勝をいかして、優れた庭園が造られた。紀州藩主随一の文化人・10代藩主**徳川治宝**が、西の高津子山を借景として造園した**養翠園**は、江戸の浜離宮と同じく珍しい潮入りの大名庭園である。園内には茶室を設け、和歌の浦をかたどった菓子や茶器もつくられた。南東の**琴ノ浦**では、近代になって**温山荘庭園**が築かれた。和歌の浦を見下ろす船尾山を借景とした池泉回遊式の庭園には、皇族や大臣も訪れ、関西を代表する名園となっている。

4．和歌浦十景にみる、うたわれ絵になる絶景

和歌浦十景は、干潟と玉津島を中心として、様々な方向からうたわれ絵になってきた和歌の浦の風景の広がりを教えてくれる。

南の**藤白坂**を登れば、北には万葉集にうたわれた黒牛潟、和歌の浦、雑賀崎から、はるか淡路島・四国まで変化に富んだ絶景が広がる。万葉の時代にここで処刑された悲劇の皇子・**有間皇子**が最後に見たのは、紅葉に彩られた峠越しの和歌の浦の海であった。そして熊野参詣の貴族たちが、都から山道が続く紀伊路で初めて海を望める所として、和歌の浦をながめながら歌会や舞楽を催した。

干潟の東、夕陽をあびて満潮の水面に映える名草山の中腹には、西国三十三所巡礼の第二番札所・**紀三井寺**がある。かつて俳聖・**松尾芭蕉**は過ぎゆく春の名残を求めて和歌の浦を訪れた。春、この境内には桜が咲き誇り、西をながめれば春霞の干潟に玉津島の岩山が並ぶ。

和歌の浦一円の鎮守であり、文芸の神をまつる**和歌浦天満宮**が鎮座する天神山は、和歌の浦の北西、入り江の最も奥にそびえている。色彩豊かな社越しに入り江を見下ろせば、緑濃い松林と石橋の間に釣り舟が見えかくれし、風景の一部のような人々の営みが目に映る。

和歌にうたわれ、和歌の文化を育み、芸術の源泉となった和歌の浦。この地は、うたわれ絵になる絶景の宝庫として人々を魅了し続けている。

関西の日光といわれる紀州東照宮

今にうけつがれる和歌祭（面掛行列）

養翠園の潮入りの池と高津子山

熊野古道の藤白の獅子舞

西国巡礼の桜の名所・紀三井寺

天神山に鎮座する和歌浦天満宮

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	芸術を育んだ絶景　和歌の浦			
1-1	和歌の浦 (干潟)	国名勝	【和歌浦十景「蘆州鳴鶴」】 和歌川の河口に立地する海浜の景勝地。奈良時代に聖武天皇がその景観を讃えて末永く守るよう命じ、江戸時代にも紀州藩初代藩主徳川頼宣が、景観を守るよう命じた。干潟の芦辺に鶴が飛ぶ様は、和歌浦十景の一つである。	和歌山市
1-2	和歌の浦 (片男波)	国名勝	【和歌浦十景「松汀積雪」】 和歌の浦の干潟を外海と隔てる砂州は、山辺赤人の和歌にちなみ、片男波とよばれる。片男波の砂州の松林に雪が積もる様は、和歌浦十景の一つとなった。	和歌山市
1-3	和歌浦図関係資料 (和歌浦図屏風等 10 点)	県美術未指定	和歌の浦は、日本三景と並ぶ名所として、数多くの名所図の画題となった。	和歌山市
1-4	和歌浦十景関係資料 (明光浦十景図)	未指定	和歌の浦の名所十景を描いた画。江戸時代の和歌の浦出身の絵師・桑山玉洲が、和歌の浦の実際の風景と、万葉集や新古今和歌集でうたわれた情景を見事に融合させて描いた構図は、後に多くの絵画や美術工芸品に写された。	和歌山市
1-5	南紀男山焼 (和歌の浦関係 4 点)	未指定	江戸時代後期に殖産興業として奨励された焼き物。紀州の名所として和歌の浦の景色を描いた器が数多く作られ、各地に配られた。	和歌山市
1-6	駿河屋菓子木型 「和歌の浦」 「紀八景」	未指定	駿河屋は室町時代から現在まで続く菓子司で、徳川頼宣とともに紀州に移り御用達となった。文雅を好んだ紀州藩 10 代藩主徳川治宝は和歌の浦の名所を表した菓子を作らせた。	和歌山市
1-7	紀伊国名所図会 板木	市美術	江戸時代後期の地誌書。特に和歌の浦には多くの頁数をさき、江戸時代の紀州で代表的な名所であったことを示す。	和歌山市

2	和歌の聖地　和歌の浦の誕生			
2-1	和歌の浦 (玉津島神社)	国名勝	【和歌浦十景「玉津春暁」】① 奈良時代、聖武天皇は和歌浦行幸し、玉津島と干潟のながめに感動してこの景観を守るよう詔を発した。玉津島は和歌の聖地として崇められたが、定まった社殿はなく、玉津島の岩山そのものがまつられた。関ヶ原の戦後に入国した浅野幸長により社殿が再興され、徳川頼宣により本格的に整備された。	和歌山市
2-2	玉津島神社 三十六歌仙額	市美術	徳川頼宣が、和歌の祭神にちなみ三十六歌仙額を奉納した。近世初期に、和歌の浦の天満宮・玉津島神社・東照宮の三社にそれぞれ奉納された三十六歌仙額は、紀州の文化芸術を語る上で重要な要素となっている。	和歌山市
2-3	玉津島神社 奉納和歌	市文書	玉津島神社の祭神・衣通姫は上代の絶世の美女で和歌の名人として知られ、住吉明神、天満天神（江戸時代には柿本人麻呂）と並び和歌三神の一柱とされた。京の公家や歴代の藩主から多くの奉納和歌がある。	和歌山市
2-4	和歌の浦 (塩竈神社)	国名勝	【和歌浦十景「輿窟波華」】 玉津島山の一つ鏡山で、加羅岩とよばれた奇岩の岩山に波が打ち寄せる様は、和歌浦十景の一つ。波で削られた洞窟に、浜降り神事で紀ノ川上流から渡った神輿がおかれたため、輿の窟といわれ、潮の満ち干を司る神をまつる。	和歌山市
3	天下人や藩主もほれこんだ、和歌の浦の絶景			
3-1	紀州東照宮	国重建造物	徳川頼宣が、父家康をまつる社として、地主神でもある天満宮の隣に造営した。天神山に天満宮、権現山に東照宮が並び建つ様は、和歌の浦の代表的な景観の一つ。	和歌山市
3-2	和歌祭・ 和歌祭祭礼所用具・ 和歌祭仮面群 面掛行列所用品	未指定 県美術	紀州東照宮の例大祭で、東照宮創建時から伝わる渡御行列は、江戸時代の芸能風俗を今に伝える時代絵巻である。万葉の山辺赤人の和歌にちなみ、和歌の浦を象徴する要素である鶴の意匠が随所にみられる。	和歌山市

3-3	和歌の浦 (妹背山・ 海禅院多宝塔)	国名勝 市建造物	【和歌浦十景「玉津春暁」】② 玉津島の６つの岩山の先頭にある妹背山には、徳川頼宣の母養珠院（お万の方）が家康33 回忌に経石を埋納した。徳川頼宣はその上に多宝塔を建て、また三断橋と観海閣を設け民衆に開放した。観海閣は、干潟に張り出した懸造りの建物で、干潟の移ろいを楽しむことができる。名草山から西に春霞の干潟を望み、玉津島の岩山が並ぶ様は、和歌浦十景の一つ。	和歌山市
3-4	和歌の浦 (三断橋)	国名勝	徳川頼宣が、干潟に浮かぶ妹背山に自由に渡ることができるよう設置した。中国の西湖堤に倣い、石堤の３か所に石造橋を設ける。水辺の名所として多くの地誌・紀行文などに描かれた。	和歌山市
3-5	和歌の浦 (不老橋)	国名勝 市建造物	江戸時代後期、徳川治宝は和歌祭の御成道として鏡山から片男波に向けて入り江の入口に不老橋をかけ整備した。入り江はその名残として市町川となっている。	和歌山市
3-6	養翠園	国名勝	江戸時代後期、徳川治宝が造営した和歌の浦の景観をいかした池泉回遊式の大名庭園。和歌の浦の高津子山を借景とし、中国の西湖を模したという潮入の池が特徴である。	和歌山市
3-7	琴ノ浦温山荘 ・琴ノ浦温山荘 庭園	国重建造物 国名勝	【和歌浦十景「琴浦戯鴎」】 大正初期、大阪の実業家・新田長次郎により築かれた関西随一の大庭園。琴ノ浦と船尾山の景色をいかした池泉回遊式の庭と、海を望む浜座敷が特色である。	海南市
3-8	和歌山城	国史跡 国重建造物 国名勝	中世末、豊臣秀吉が、和歌の浦の北方の岡山に築いた城を、和歌の浦の名にちなんで名付けた。江戸時代は紀州徳川家の居城であった。	和歌山市
3-9	長保寺 ・長保寺の林叢	国宝建造物 県天然記念物	江戸時代初め、徳川頼宣により紀州徳川家の菩提寺とされた。古の風情を残す壮大な森に抱かれ、境内と参道は桜 400 本と牡丹1200 本の花の名所である。	海南市
3-10	和歌山藩主 徳川家墓所	国史跡	長保寺にある紀州徳川家代々の墓所。境内からつづく深い森の奥に、石造りの荘厳な墓が立ち並ぶ。	海南市

4	和歌浦十景にみる、うたわれ絵になる絶景			
4-1	熊野参詣道紀伊路 （藤白坂）	国史跡	【和歌浦十景「藤白落葉」】① 晩秋の藤白坂から、紅葉の峠並み越しに見る和歌の浦の景色は、和歌浦十景の一つ。	海南市
4-2	熊野参詣道紀伊路 （藤白王子跡） ・藤白神社 ・藤白の獅子舞	国史跡 県建造物 県無形民俗	【和歌浦十景「藤白落葉」】② 藤白坂の麓の藤白神社は、熊野古道の九十九王子でも別格の五体王子の一つ藤白王子跡に建つ。都から山道が続く紀伊路で初めて海を望める所であり、熊野参詣の貴族たちが和歌の浦をながめながら歌会や舞楽を催した。その時に披露された神楽が起源という優美な獅子舞が伝わる。	海南市
4-3	熊野参詣道紀伊路 （藤代塔下王子跡） ・地蔵峰寺	国史跡 国重建造物	【和歌浦十景「藤白落葉」】③ 熊野古道の塔下王子跡に建つ、本尊が大きな石造りの地蔵菩薩の寺。藤白坂の上にあり、寺の裏の「御所の芝」は江戸時代の人々が和歌の浦を望む地として絶賛した。	海南市
4-4	黒江の町並み	未指定 国登録	万葉集に黒牛潟とうたわれた入り江に、近世に漆器職人の町が築かれた。和歌の浦の船尾山に抱かれるように、平行四辺形の土地に連子格子の町屋が斜めに建ち並び、独特な町並みをなす。地名の元となった黒い牛のような岩があったという中言神社では名水が湧く。	海南市
4-5	護国院 （紀三井寺）	国重建造物 県建造物	【和歌浦十景「名草晩潮」】 和歌浦湾の東にそびえる名草山の中腹にある西国三十三所の二番札所で、和歌の浦をながめる絶好の場所として多くの参詣者が訪れた。満潮時に夕陽に映える名草山は、和歌浦十景の一つである。	和歌山市
4-6	鷹の巣	県天然記念物	【和歌浦十景「雑賀漁火」】① 鷹が巣を作るような断崖絶壁であるため「鷹の巣」とよばれ、荒々しい結晶片岩が露頭する絶景となっている。雑賀崎の断崖と漁師の漁の景色は和歌浦十景に数えられる。	和歌山市

4-7	雑賀崎の町並み	未指定	【和歌浦十景「雑賀漁火」】② 万葉集に雑賀の海人の漁火とうたわれた地では、断崖に張り付くように建つ町並みに漁師町の風情を見ることができ、潮が変化する旧正月を節目とする漁民の風習が残る。	和歌山市
4-8	水軒堤防	県史跡	【和歌浦十景「吹上淡月」】 吹上の砂丘は、現在では市街地の下に埋もれてしまったが、江戸時代後期に築かれた海浜の石造堤防である水軒堤防が南北にのびる様子に、かつての海岸砂丘の面影を見ることができる。	和歌山市
4-9	和歌浦天満神社 (和歌浦天満宮)	国重建造物	【和歌浦十景「松間釣舟」】 入り江の最奥の天神山に鎮座する、和歌浦一円の地主神をまつる社で、浅野幸長が再興した。天神山から干潟を見下ろし松林の間に釣舟が見えかくれする様は、和歌浦十景に数えられる。	和歌山市
4-10	明光通りの町並み	未指定 国登録	江戸時代から東照宮・天満宮の参道前に和歌の浦の廻船問屋などが軒を連ね、聖武天皇が和歌浦行幸の際にこの地を明光浦とよんだ歴史にちなみ名付けられた。	和歌山市

構成文化財の写真一覧 ①

1-1　和歌の浦の夜明け（名草山、船尾山、藤白峠）

1-1　干潟から飛び立つ鳥

1-2　和歌の浦夕景（満潮の干潟、片男波、高津子山）

1-2　早朝の干潟と水鳥（奥に片男波の松林）

1-3　和歌浦図　「厳島和歌浦図屏風」

1-4　和歌浦十景【参考】
「明光浦十覧冊」玉津春暁（桑山玉洲筆）

1-3　和歌浦図　「東照宮縁起絵巻　第五巻」（住吉如慶筆）

1-4　和歌浦十景
「明光浦十景図」玉津春暁（岡本緑邨筆）

構成文化財の写真一覧 ②

1-4 和歌浦十景「玉津春暁」の景色

1-5 南紀男山焼「玉津春暁」

1-5 南紀男山焼「紀三井寺」(名草晩潮)

1-6 駿河屋菓子木型「和歌の浦」

1-6 駿河屋落雁「和歌の浦」(妹背山・観海閣・多宝塔・三断橋)

1-7 紀伊国名所図会

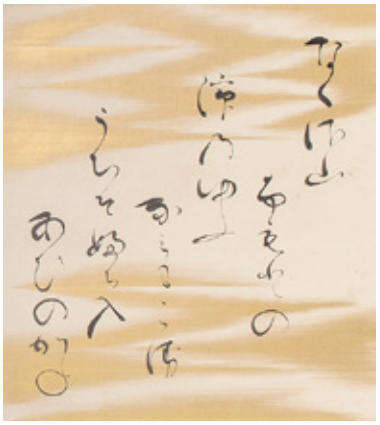
1-7 紀伊国名所図会 (紀三井寺より和歌の浦の干潟・片男波・玉津島を望む)

※『和歌浦の風景-カラーでよむ「紀伊国名所図会」-』(ニュース和歌山発行、額田雅裕解説、芝田浩子彩色)より

2-1 玉津島神社 本殿

2-2 玉津島神社 三十六歌仙額「山辺赤人」「小野小町」(狩野興甫筆)

構成文化財の写真一覧 ③



名草山　ふもとの浜の　夕波も
声打ち添ふる　入相の鐘
（紀三井寺の晩鐘が鳴る、
それに従う様に麓の浜の
夕波の音が聞えてくることよ）

2-3　玉津島神社　奉納和歌「吹上八景手鑑」名草山晩鐘（冷泉為村筆）

2-4　塩竈神社近景　鏡山と不老橋

2-1　塩竈神社　輿の窟

3-1　紀州東照宮

3-1　紀州東照宮　拝殿正面

3-2　和歌祭仮面群　面掛行列所用品（東照宮所蔵）

3-2　和歌祭（面掛行列）

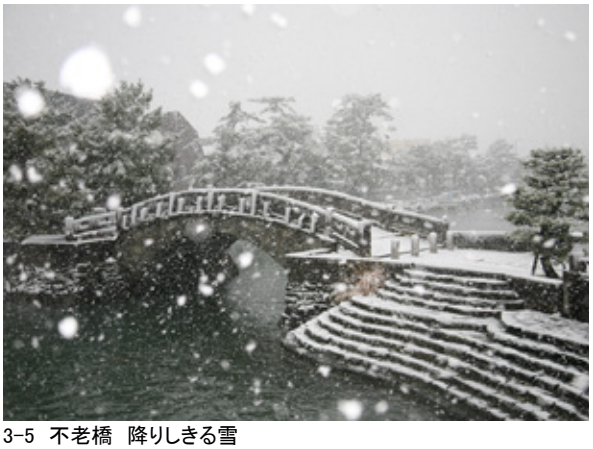
構成文化財の写真一覧 ④

3-3　妹背山　海禅院多宝塔

3-3　妹背山夕景　干潟と観海閣

3-4　妹背山　霧の三断橋

3-4　鳥と干潟と三断橋



3-5　不老橋　降りしきる雪

3-7　琴ノ浦温山荘

3-6　養翠園　潮入りの池と高津子山

3-6　養翠園　茶室「養翠亭」

構成文化財の写真一覧 ⑤

3-8 和歌山城 天守閣

3-8 和歌山城 西之丸庭園(紅葉渓庭園)と御橋廊下

3-9 長保寺 本堂と多宝塔

3-10 和歌山藩主徳川家墓所 初代徳川頼宣の墓

4-2 藤白神社

4-2 藤白の獅子舞

4-3 地蔵峰寺 本堂

4-3 地蔵峰寺 石造地蔵菩薩坐像

構成文化財の写真一覧 ⑥

4-1　熊野参詣道紀伊路（藤白坂）

4-4　黒江の町並み

4-5　護国院（紀三井寺）　楼門

4-5　護国院（紀三井寺）　多宝塔

4-6　鷹の巣

4-7　雑賀崎の町並みと漁火

4-9　和歌浦天満神社（天満宮）　御手洗池と天神山

4-9　和歌浦天満神社（天満宮）　石段と楼門

構成文化財の写真一覧 ⑦

4-8　水軒堤防（古写真）

4-8　水軒堤防と西浜遠景

4-8　水軒堤防（堤防の石積み）

4-10　明光通りの町並み